

優秀賞

かけ声

三島市立北小学校 6年 泉 蘭

私は去年の冬、ゴジラというソフトボールのチームに入った。私は球技が得意だったから、やることも理解できた。

ある日、練習をしている時に、一部のチームメイトが、ゲームの話をしているのを聞いた。

（さすがに練習中はだめだろう。）

そう思い、声をかけてみる。

「ちゃんと練習に集中しなよ」

と言ってみるが、まったく聞く耳を持たない。そこに私はチームメイトとの関係の壁を感じた。私はさすがにこの関係はまずいと思い、母に相談してみた。そうすると母は

「あら、そんなことがあったの。でも気にしちゃだめよ」

と言ってくれた。しかし、気にしないで解決する問題なのだろうか。そこで私は考えた。兄ちゃんがソフトボールをしていたころを。そこで私は、今と兄ちゃんがやっていたころの決定的な違いに気がついた。声だ。そう確信した。

（声を出そう。そうすればチームの士気が上がる！）

そう思った。そこで私は、次の練習からおもいきり声を出した。最初は、私が大きな声を出した時、皆はきよんとしていたけれど、私がずっと声を出しているうちに、皆も声を出してくれるようになって、最初のように関係、壁がうそのように無くなっていて、チームメイトとも、仲良くなつてとてもうれしい気持ちになった。だから私は声を出す。この関係が続くように。だから私はいつもチームメイトに笑われる。

「お前はいつも声がかれてるな」と。